

政策の名称	国際組織犯罪等の質的变化への的確な対応（組織窃盗対策用捜査資機材の整備）				
政策の内容・目的	近年、来日外国人組織、暴力団等による組織的かつ広域にわたる窃盗事件が多発し、治安上憂慮される状況にある。これら組織窃盗対策を支援するための捜査資機材を整備し、もってこの種事件を検挙するとともに、組織壊滅を目指すものである。				
必要性	<p>窃盗犯の平成12年の認知件数は、過去最高の213万件と激増しており、我が国の治安情勢の悪化の主要因となっている。中でも、来日外国人組織等によるピックアップ用具を使用した侵入盗は約3万件と、侵入盗の認知件数約30万件中10%を占めるに至っており、また、暴力団員等がビジネスとして大都市部等で高級車を窃取し、不正輸出する自動車盗も激増している。このような組織窃盗（「多数の被疑者が首魁による指揮統制の下に下見、窃取、盗品の運搬、処分など各行為を分担して行う窃盗犯罪」）の激増は、国民に大きな脅威を与えており、治安に対する信頼が大きく揺らぎかねない深刻な状況にある（別紙）。</p> <p>来日外国人組織等による組織窃盗事件は、都道府県の複数の地域にわたり犯行が敢行されており、犯行地、アジト、盗難車輸出港等が広域に及ぶことから、広域捜査を要する。また、犯罪組織の組織防衛は強く、検挙活動に凶器で抵抗したり、現行犯として検挙しても黙秘や否認する者も多いなど捜査、立証には組織犯罪特有の困難性を伴うことから、この種の捜査活動を支援する有効な資機材を緊急に配備する必要がある。</p>				
達成効果等	<p>次の資機材を整備することにより、組織窃盗グループの組織実態の解明が効率的に推進され、首謀者等組織中枢や構成員多数の検挙を図ることができる。</p> <p>(1) 画像監視システム  (2) 超小型カメラ  (3) 張込みセンサー  (4) ピッキング用確認スコープ(カメラ付き)</p>				
予算額	<table border="0"> <tr> <td>平成12年度補正</td> <td>49百万円（画像監視システム）</td> </tr> <tr> <td>平成14年度要求・要望額</td> <td>297百万円</td> </tr> </table>	平成12年度補正	49百万円（画像監視システム）	平成14年度要求・要望額	297百万円
平成12年度補正	49百万円（画像監視システム）				
平成14年度要求・要望額	297百万円				
効率性	これらの捜査資機材を整備すれば、既存のマンパワーをより効率的、効果的に活用した取締り・捜査活動が可能となる。				
その他	急増する国際組織犯罪等に対して、有効適切な対策を総合的かつ積極的に推進することを目的に、本年7月10日、内閣に設置された国際組織犯罪等対策推進本部（本部長：内閣官房長官）においても、同本部が取り組むべき主要課題として				

- ・ ピッキング用具使用の組織的窃盗
- ・ 自動車の盗難と盗難自動車の不正輸出

等の問題を取り上げることが決定された。

これに伴い、関係省庁では、これらの課題に対する予算措置を含めた対策を推進することとしている。

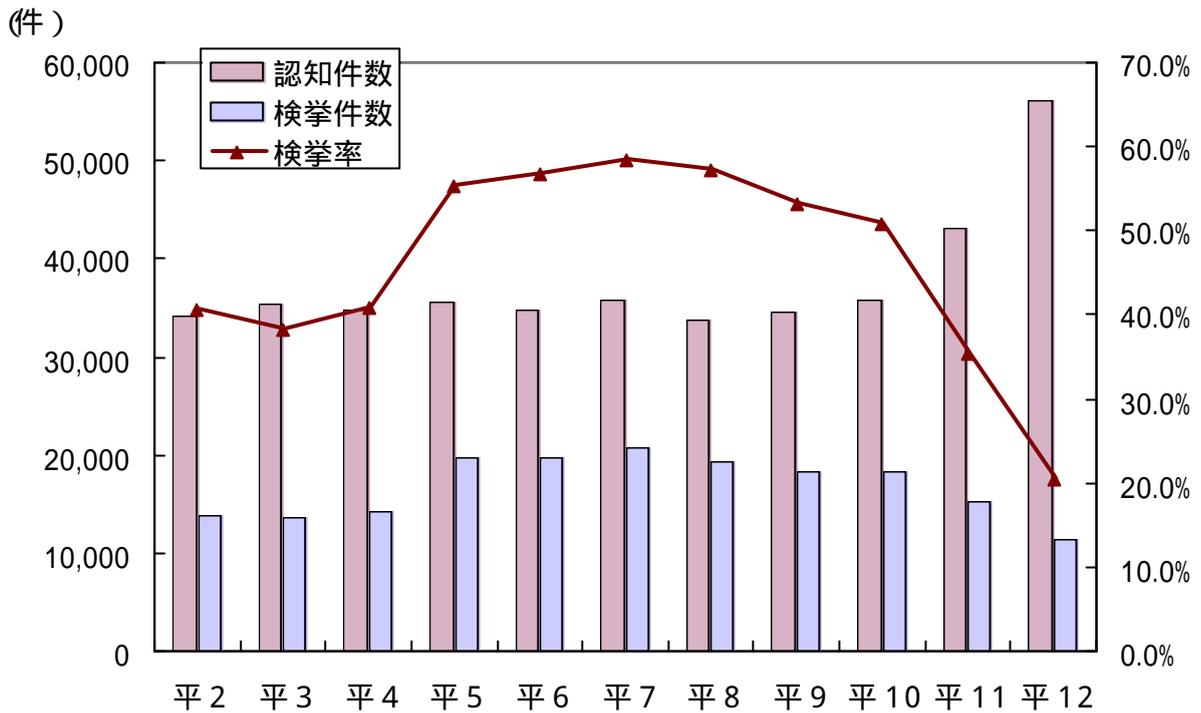
政策所管課

捜査第一課

政策評価実施時期

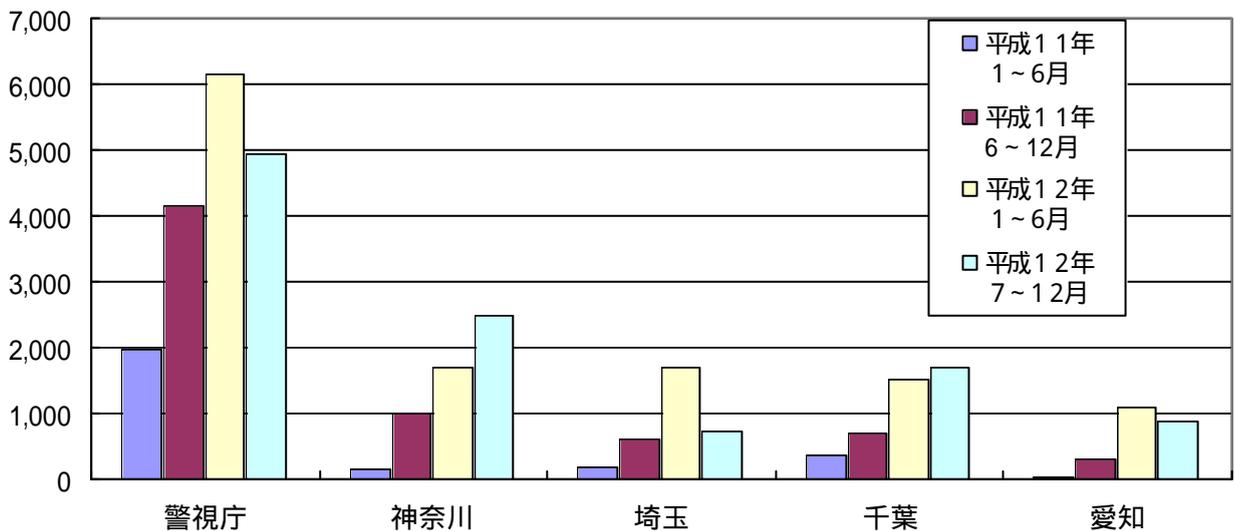
平成13年8月

### 自動車盗認知・検挙状況の推移



自動車盗	平2	平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12
認知件数	34,167	35,366	34,740	35,648	34,725	35,730	33,722	34,489	35,884	43,092	56,205
検挙件数	13,839	13,550	14,140	19,739	19,717	20,821	19,264	18,291	18,210	15,241	11,415
検挙率	40.5%	38.3%	40.7%	55.4%	56.8%	58.3%	57.1%	53.0%	50.7%	35.4%	20.3%

### 主要5都県ピックアップ使用侵入盗認知件数半期別推移



(単位:件)

	警視庁	神奈川	埼玉	千葉	愛知	合計
平成11年 1~6月	1,960	137	177	377	28	2,679
平成11年 6~12月	4,151	996	611	700	298	6,756
平成12年 1~6月	6,164	1,710	1,693	1,501	1,085	12,153
平成12年 7~12月	4,925	2,474	736	1,685	887	10,707